

百忍の詩（中江藤樹）

一たび 忍べば 七情 皆 中和す

再び 忍べば 五福 皆 並び 臻る

忍んで 百忍に 到れば 満腔の 春

熙々たる 宇宙 総べて 真境

一忍七情皆中和 再忍五福皆竝臻  
忍到百忍満腔春 熙熙宇宙總眞境

解説 藤樹自身の、陽明学に基づく人生感を述べたもの。

語釈 ※百忍〓百度も忍ぶ。※七情〓七種の感情。仏教では、喜・怒・哀・樂・愛・悪・欲をいい、礼記では、喜・怒・哀・懼・愛・惡・欲をいう。※中和〓かたよらないで、穏やかなこと。※五福〓人生の五つの幸福。つまり、寿命が長いこと。財力が豊かなこと。無病なこと。徳を好むこと。天命をもって終わること。※満腔〓一杯に満ちていること。※熙熙〓広々としていること。※真境〓眞の境地。

通釈 人間の感情は七種からなっており、この感情が直接表に現われると、思わぬことが起こるものである。まず、一度これを忍べばそれらの感情は一つに偏らず、穏やかに和らぐものである。さらに修業を積み、再び忍ぶことが出来るようになると、人生の五つの幸福がすべて自分自身の周囲に集まるようになる。このように修業を積み重ね、百度も忍ぶことが出来るようになると、心の中はいつも春の暖かさに包まれ、広々とした宇宙で起こる全ての事象を楽しく受け入れることが出来るものだ。これが眞の境地というものなのだ。